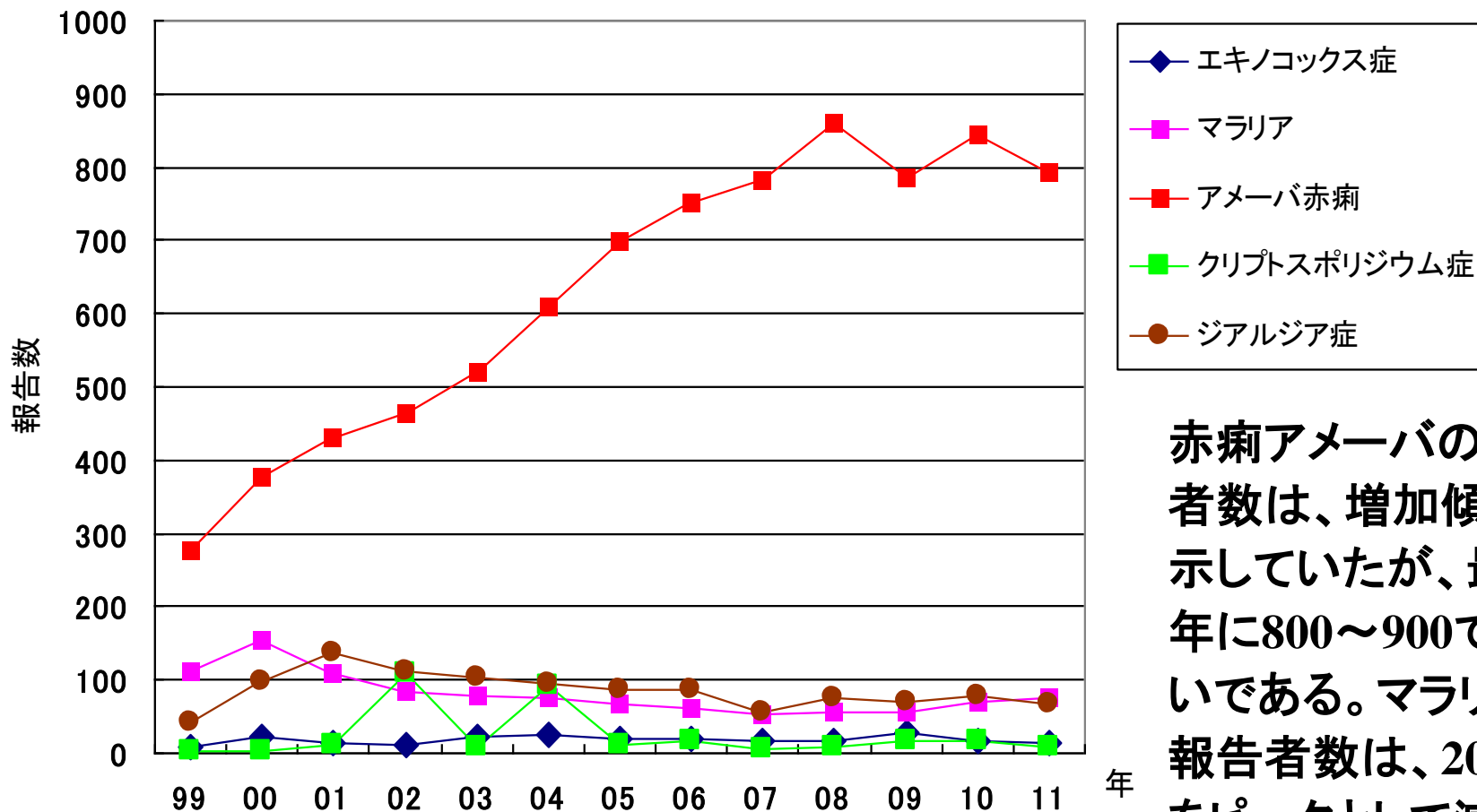


平成23年度レファレンスセンター活動報告

寄生虫

感染症法による届出対象寄生虫症の最近の動向

感染症法対象の寄生虫疾患年次報告数の推移



赤痢アメーバの報告者数は、増加傾向を示していたが、最近は年に800～900で横ばいである。マラリアの報告者数は、2000年をピークとして減少し、最近は年に50～70である。

平成23年度 感染研・寄生動物部における 寄生原虫症依頼検査実績

年度	消化管寄生性原虫類	病原性自由生活アメーバ類
H23	34	35
H22	46	23
H21	71	30
H20	25	22
H19	8	6
H18	11	4
H17	19	7

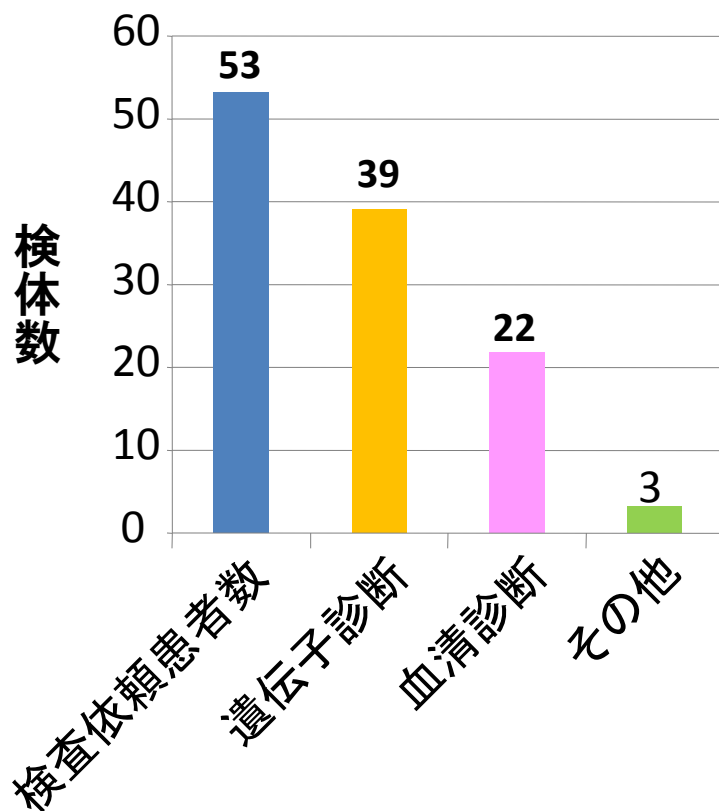
検査内容：培養、顕微鏡、DNA検査

平成23年度 感染研・寄生動物部における 寄生蠕虫症依頼検査実績

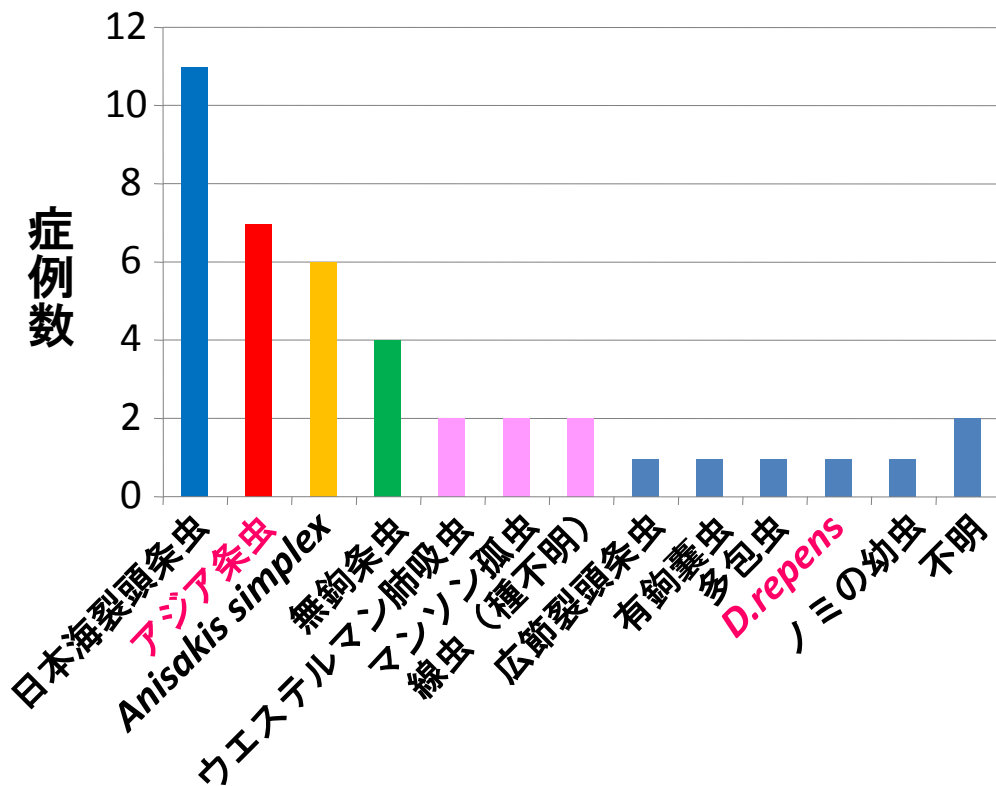
年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
遺伝子検査	24	22	20	39
血清検査	40	40	64	22
その他	1	2	8	3
検査総数	65	62	92	53
確定数(%)	49 (75.4)	42 (67.7)	70 (76.1)	41 (77.4)

平成23年度 感染研・寄生動物部における 寄生蠕虫症依頼検査実績

依頼検査数と検査別件数

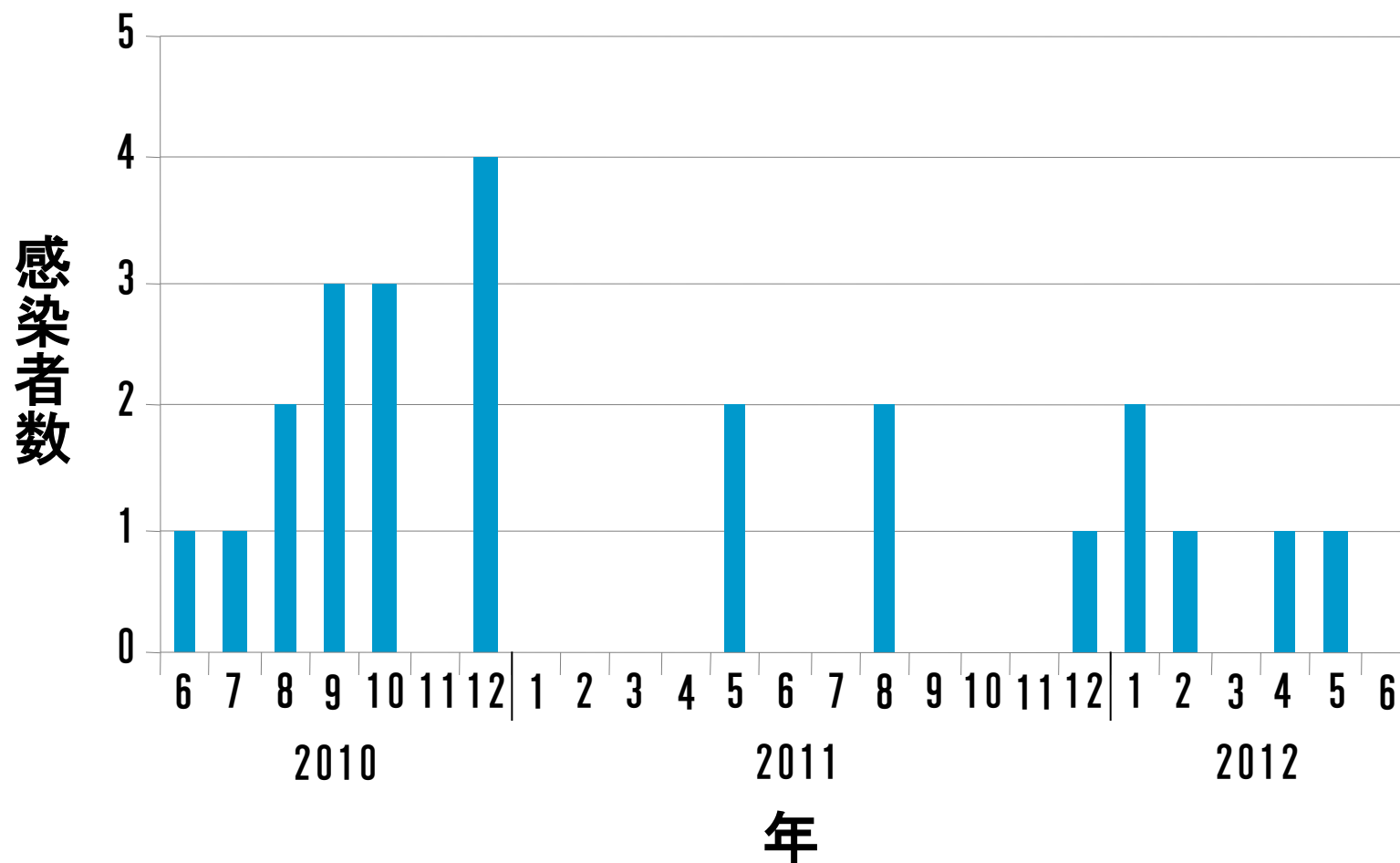


確定診断された寄生虫症 (41件)



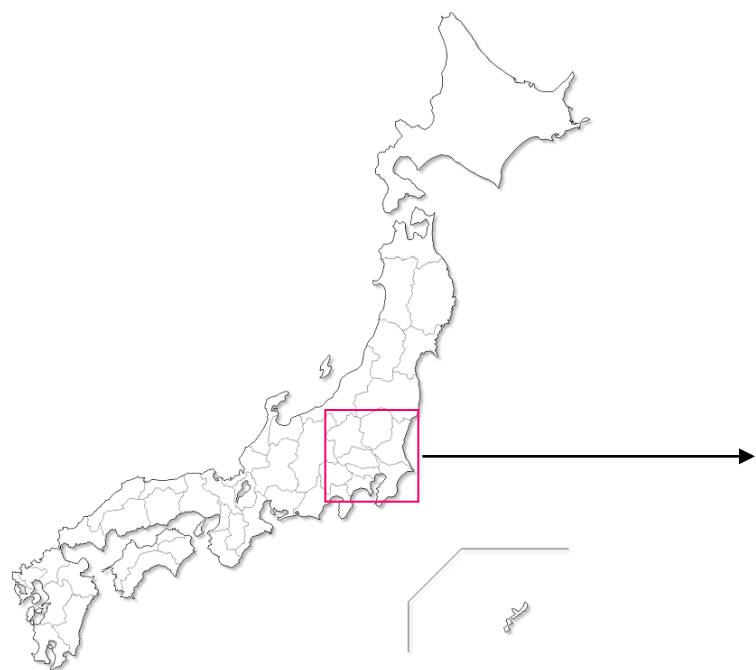
特記事項: 2010年度は関東地方でアジア条虫(豚肉から感染)による国内感染事例が相次いだ。

関東地方で確認されたアジア条虫感染者数の推移

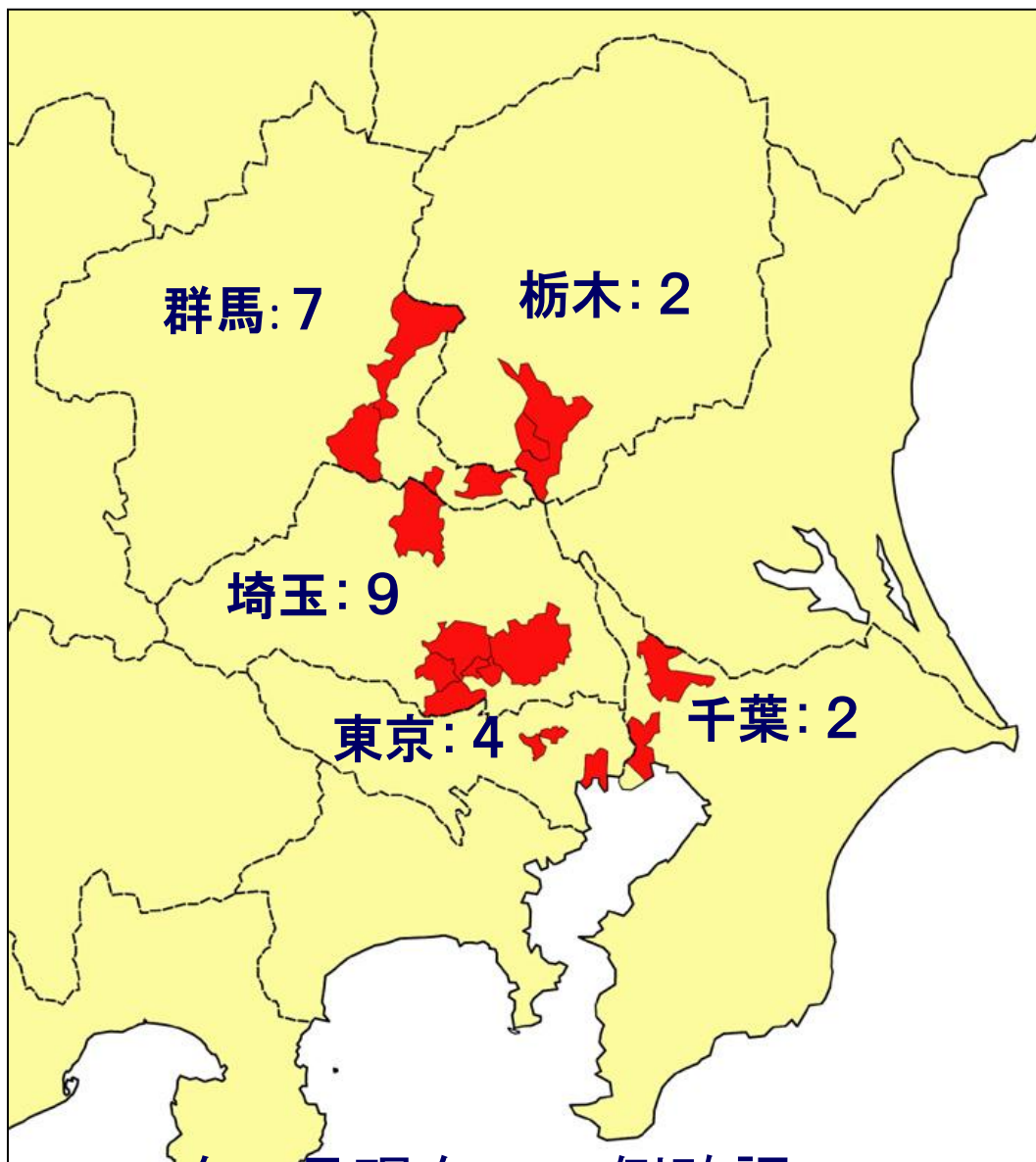


2010年6月に第1例が確認されて以来、同年12月までに感染者数の増加傾向が見られたが、その後、感染者数は減少した。しかし、2011年から今年にかけて、再び感染者が確認されている。

関東地方におけるアジア条虫感染者の発生状況



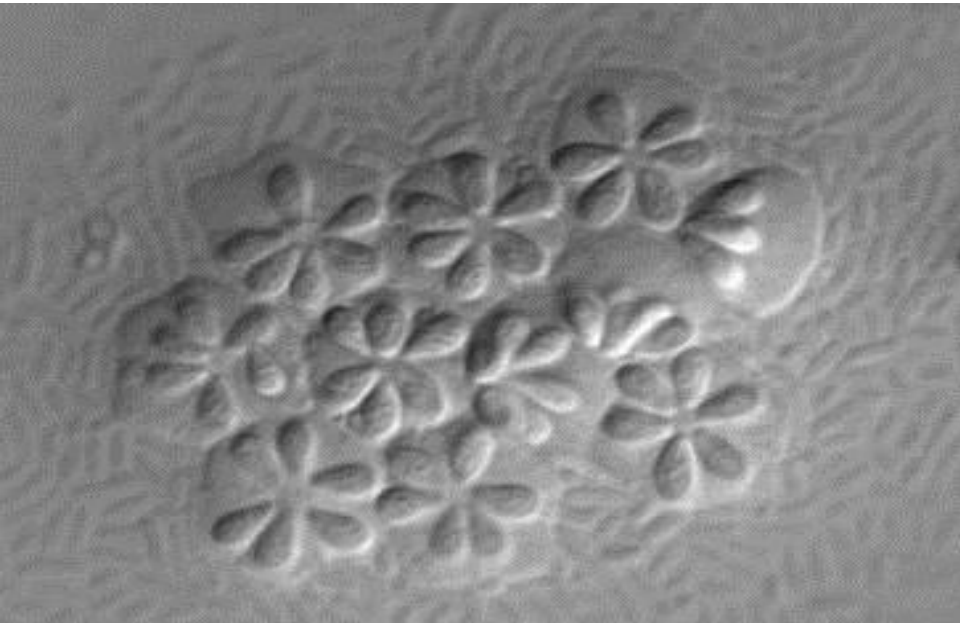
● 感染者の居住地



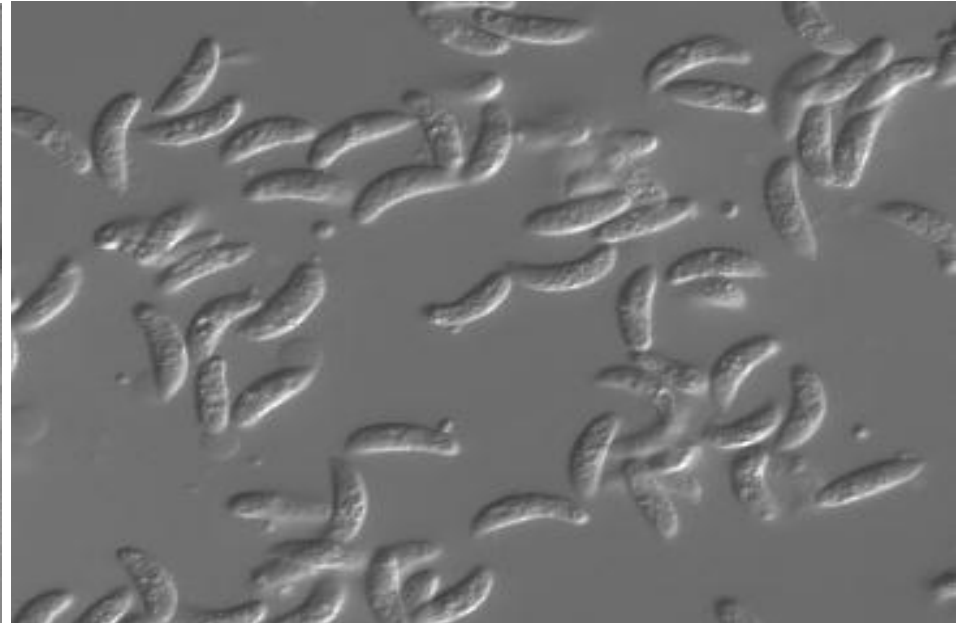
2012年6月現在、24例確認

寄生虫による食中毒 –2011年に通知が出たもの–

IASR 2012年6月号で特集



Kudoa septempunctata
(クドア)

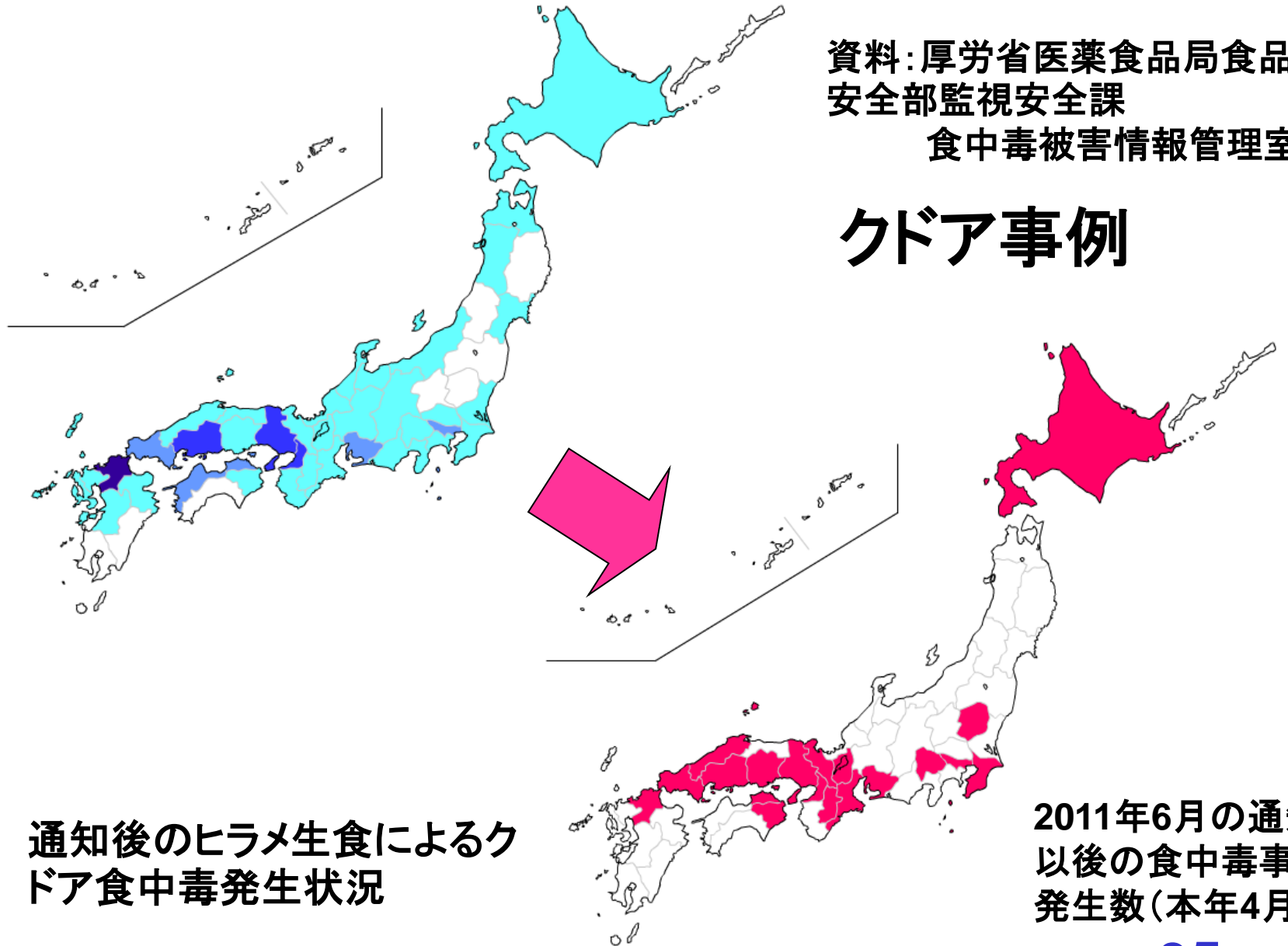


Sarcocystis fayeri
(ザルコシスチス)

食中毒発生動向 — 通知で変化があったか —

資料：厚労省医薬食品局食品
安全部監視安全課
食中毒被害情報管理室

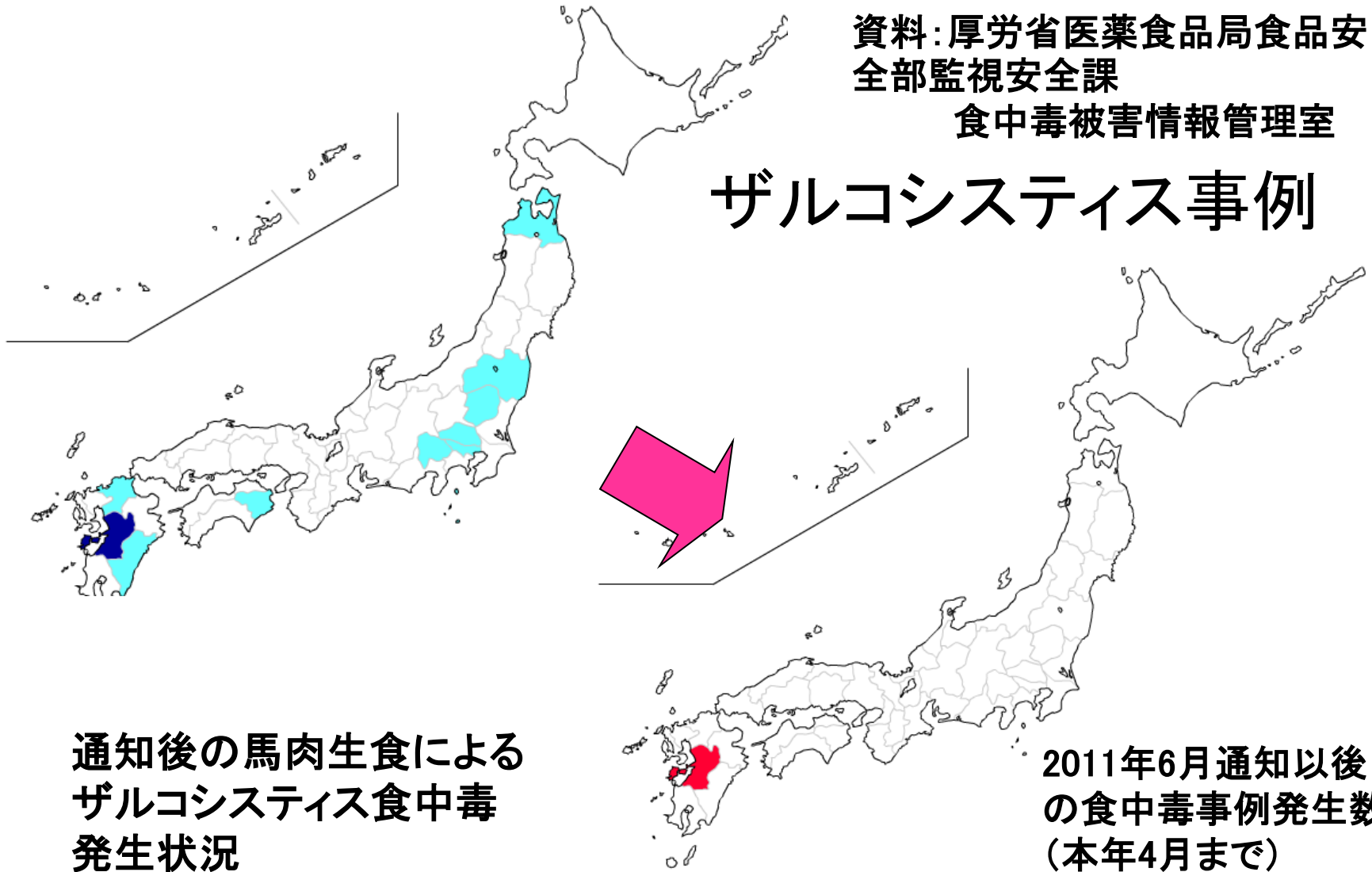
クドア事例



食中毒発生動向 — 通知で変化があったか —

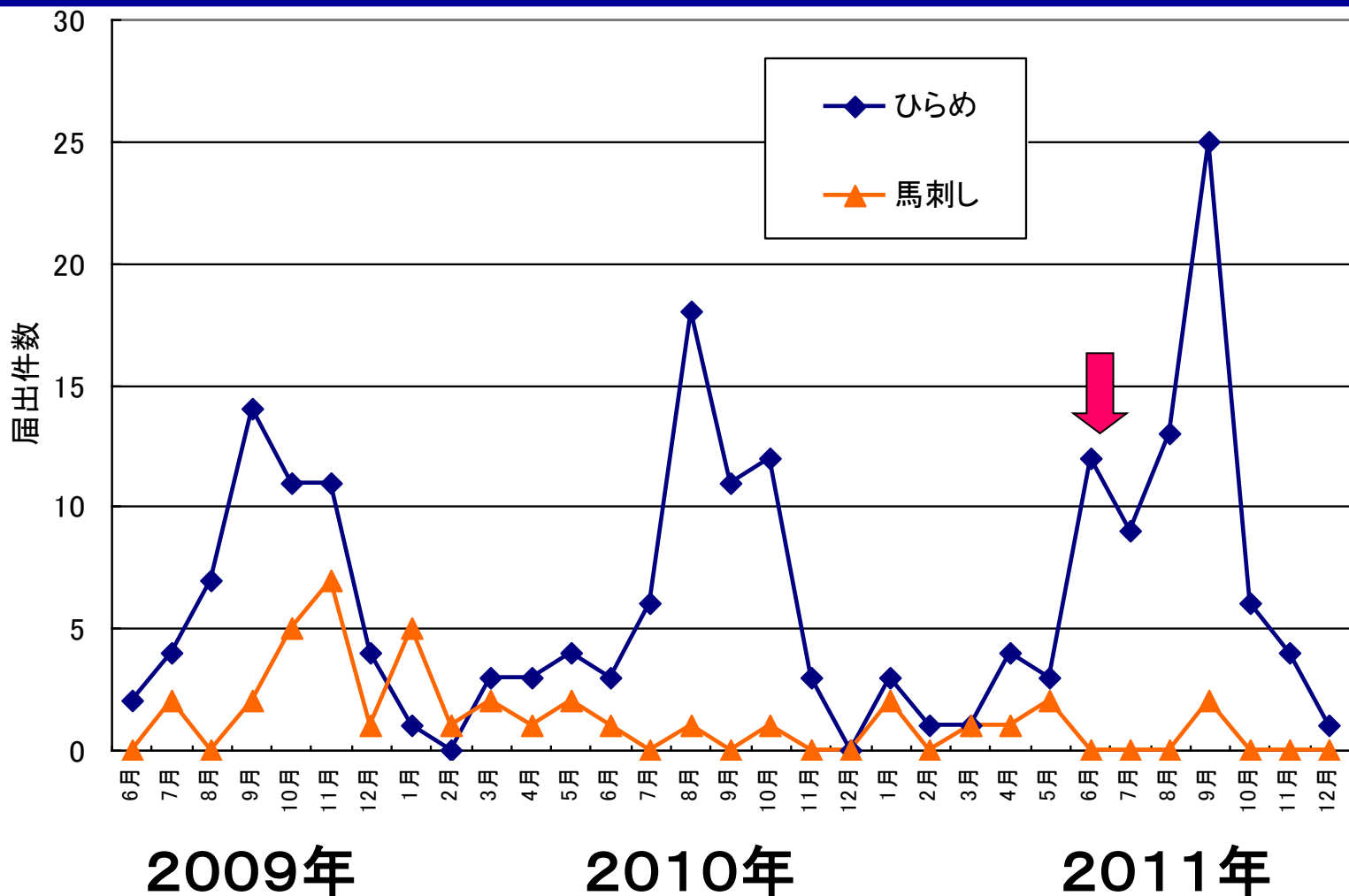
資料：厚労省医薬食品局食品安全
全部監視安全課
食中毒被害情報管理室

ザルコシスティス事例



ひらめ生食と馬刺しによる食中毒発生動向

— 季節変動と今後、今年の夏はどうなるか？ —



資料：厚労省医薬食品局食品安全部監視安全課食中毒被害情報管理室

今年度の展開

検査用のコントロール供与など

— 病原体検出マニュアル改訂とあわせて —

原虫関連

消化管寄生原虫のDNA試料, 抗クリプトスポリジウムモノクローナル抗体 など
マラリア原虫のDNA試料(陽性コントロール) など

蠕虫関連

多包虫DNA試料(陽性コントロール)と遺伝子増幅用プライマーの供与 など

情報の共有

— 寄生虫による食中毒 —

アジア条虫感染関連検体 → 感染研・寄生動物部第2室
グダア関連の食材検体 → 国立医薬品食品衛生研究所
(ヒラメとは限らない!) 衛生微生物部 (冷蔵で)